

大絵馬掛け替え

川越市南通町の川越八幡宮で20日、新年の干支(えと)を描いた大絵馬3枚の掛け替え作業が行われ来年の辰(たつ)年にちなんだ竜が、今年のウサギに替わってお目見えした。

大絵馬は一つが畳2枚分の大きさ。同市の山村学園高校と市立川越第一中学校の美術部員、市立中央小学校のマンガクラブの子供たちが絵を担当し、2007年から毎年奉納している。22日には完成した絵馬のもとに、3校の子供たちが集まる予定。川越八幡宮禰宜(ねぎ)の榊原祥光さんは「絵馬には、たくさんの市民に見に集まってもらいたい、という願いが込められている」と話している。 (2011年12月21日 読売新聞)



ウサギから竜に替わった川越八幡宮の絵馬(川越市南通町で)

卯から辰へ 一足早く干支引き継ぎ

2011年12月21日

◇川越八幡宮で大絵馬の掛け替え◇

川越市南通町の川越八幡宮で20日、干支(えと)大絵馬の掛け替えがあった。一時的に今年の卯(う)と、新年の辰(たつ)が並び、絵馬の「引き継ぎ式」のようになった。

川越中心街ではマンションが立ち並び、都市化が進んでいることから、新住民にも昔の風情を残す鎮守の森に親しんでもらおうと企画された。

地元の中央小学校のまんがクラブや川越第一中学校の美術部、山村学園高校の美術部にそれぞれ制作を依頼。畳2畳分の絵馬形の板にペンキを使って半年間かけて描いてもらった。

中央小は白い雲の上を飛ぶ竜、川越第一中は富士山と日の出を背景とした竜、山村学園高は時の鐘と蔵造りの町並みの上を飛ぶ竜を描いた。

3枚の絵馬は1年間、境内に飾られるという。

